**令和３年度大阪府がん対策推進委員会　メール審議（概要）**

１．日　時：令和４年２月７日～１８日

２．議　事：

（１）第３期大阪府がん対策推進計画の中間点検の報告について

（２）市町村がん検診の精検受診率に向上に関する取り組み調査結果について

（３）がん検診受診率向上事業について

・令和３年度の取り組み報告及び令和４年度の取り組み予定

（４）精度管理センター事業について

３．委員からの意見要旨と審議結果

（１）第３期大阪府がん対策推進計画の中間点検の報告について【資料１】

　　【意見要旨】

〇 評価項目が、検診受診率、精密検査受診率、が主であるため、実際に胃がんがどれくらい発見されているのか、早期胃がんの割合がどれくらいであるのかなど、アウトプット（精度管理）のフィードバックも重要。

〇 胃がんについて、検診受診率、精密検査受診率ともに目標値より低いとのことだが、日本は保険制度が発達しているため、ほぼ無症状でも「健診」として内視鏡検査（診療）を受けることが可能であるため、その影響もあると思う。

〇　胃がんの原因と考えられているピロリ菌の感染率は年齢が若くなるとともに低下し（Sci Rep 7, 15491;2017）、65歳で約60%であるが、40歳で27%、30歳で18%、20歳で10.7%となっている。全胃がんの中で、ピロリ菌未感染胃癌は1%にも満たないとされていて、ピロリ菌感染の胃癌が99%を占めている。受診率のみでなく、健診の効率化と言う観点からは、上記背景から適切ながん検診受検年齢を考えることも必要ではないか。

〇 胃がん発見率や陽性反応適中率が低下している傾向にあるのも、受検年齢やピロリ菌感染率の低下など、対象の有病率が低下している可能性がある。特に胃がんにおいては、対象集団のリスクに応じた対策が、検診の効率化の観点からは重要に思う。

〇　コロナ禍による検診受診率と精検受診率への影響がわかるように、容易に入手できるデータでよいので、毎年の数値を明らかにしておくほうがよいのではないか。

【審議結果】

　　　　　承認。

（２）市町村がん検診の精検受診率に向上に関する取り組み調査結果について

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【資料２－１】【資料２－２】【資料２－３】

【意見要旨】

〇　変化のない市については、改善を求める文書を工夫するか、担当者への直接的な働きかけ等が必要と考える。高槻市では、医師会の精度管理委員会が個別に医療機関に働きかけを行い成果があった。

【審議結果】

　　　　　承認。

（３）がん検診受診率向上事業について

・令和３年度の取り組み報告及び令和４年度の取り組み予定

【資料３－１】【資料３－２】【参考資料１】

【意見要旨】

〇　大企業については直接的な働きかけも必要と考える。

〇　職域のがん検診の実態を把握する、意義のある調査結果である。なかにはショッキングな数値もある。国または他都道府県での同様の調査結果があれば互いに情報交換しつつ、大阪府で把握した実態に基づいてアクション・介入へと移っていくべきではないだろうか。

【審議結果】

　　　　　承認。

（４）精度管理センター事業について【資料４】

【意見要旨】

〇　要精検率が高い等指標を満たしていない検診機関に対しては、直接的に機関に対する調査等の働きかけが必要。

【審議結果】

　　　　　承認。